



分科会 6 薬剤師の生涯学習元年一更なる自己研鑽へ JPALS

10月7日(日) 15:00～17:30 第8会場(オークラクトシティホテル浜松 3F チェルシー I)

W-06-05

JPALS の活用方法～これからの研修会企画～

たかはま ひろし
高濱 寛

日本薬剤師会 生涯学習委員会副委員長

先進国における薬剤師の生涯学習は、FIP（国際薬剤師・薬学連合）が提唱するCPD（継続的な専門能力開発）を基本として行われている。CPDは、学習者自身が学習の査定をし、計画を立て、実践し、評価するという4つのステップを継続して行う学習方法である。平成24年4月からスタートしたJPALSは、CPDを実践することを目的として開発されている。学習者が、ポートフォリオに入力したPSデータを活用することで、研修会自体も査定、計画、実践、評価というサイクルで実行できると考え、これからの研修会企画について提案させて頂きたい。1. 生涯学習と研修会学校教育では、教育者が学習の目標、方略、評価を設定するため、学習者は授業や試験を受けることで学力向上を図ることができる。生涯学習の場合は、学習者自身が主体性をもって学習の目標、方略、評価を設定しなければならない。しかし16年以上も学校教育で教育者に頼る学習スタイルを基本として来たため、卒業後も教育を受ける場が必要とされ、薬剤師会等が主催する研修会が、生涯学習の中心的存在となっている。しかし研修会も、学習者が主体性を持ち目標を立てて参加しない限り、学習評価が行われず、自己の弱点に気づかずに学習を終えてしまう可能性があり、CPDを実践する必要がある。2. 研修会の評価日本薬剤師研修センターの認定対象研修会である場合、終了後の研修報告書には、参加人数と内容分類を記載することから、研修会評価として、参加人数を重視する傾向があると考える。そのため研修会企画は、参加者を増やすためのタイトルや講師選定に重点が置かれることになり、同センターが作成した集合研修評価表や薬剤師生涯研修の指標項目等による評価を行った上での研修会企画には至っていないと考える。3. これからの研修会企画ポートフォリオのPS学習状況を地域で集計し、学習できていない到達目標に関する研修会を企画することで、効率よく学習を推進できると考える。また研修会のポートフォリオのPS学習状況を集計することで、研修会の学習内容を評価することが可能となり、さらに次の研修会企画にも応用できる。学習者と研修会企画者が、共通の学習目標としてPSを利用することで、本来の研修会企画ができるようになる。そのためにはまず、学習者がポートフォリオを記録する習慣をつけて頂くことが大切であると考えます。